



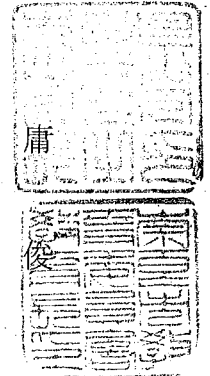
別紙様式第2号 (第3関係)

平成30年8月3日

奈良市議会議長 東久保 耕也 様

回答者 奈良市長 仲川 元 庸

奈良市教育長 中室 雄 俊



文 書 質 問 回 答 票

奈良市議会基本条例第21条第1項の規定に基づく三橋和史議員の文書質問について、次のとおり回答します。

質問事項	<p>市政運営について</p> <p>2、市立右京小学校の耐震改修の必要性について</p>
回答内容	<p>構造耐震指標である Is 値は、建物の耐震性能を表わす指標であり、国土交通省より地震に対して、Is 値が 0.6 以上の場合には倒壊または崩壊する危険性が低い、Is 値が 0.3 以上 0.6 未満の場合には倒壊または崩壊する危険性がある、Is 値が 0.3 未満の場合には倒壊または崩壊する危険性が高いと示されています。</p> <p>また、文部科学省では、地震時の児童生徒の安全性、被災直後の避難場所としての機能性を考慮し、補強後の Is 値がおおむね 0.7 を超えることとしています。</p> <p>現在、市立右京小学校校舎の Is 値につきましては、本館東側棟は Is 値 0.79 と 0.64 の棟が混在、本館西側棟は Is 値 0.39、北館西側棟は Is 値 0.57、北館東側棟（旧右京幼稚園・現在使用せず）は Is 値 0.43 となっており、全ての棟が Is 値 0.3 以上を確保しているため、現在のところ、倒壊、又は崩壊する危険性が高い棟はありません。また、児童が学校における一日の大半</p>



を過ごす普通教室については、昨年の夏季休暇中に保護者のご協力を得て、本館東側棟に移設が完了しているため、一定の安全性は確保されているものと考えております。

しかしながら、平成 30 年 6 月 18 日に大阪府北部を震源とする地震が発生し、今後いつ余震・本震が再び起こるかわからない状況下において、早急に児童のより一層の安全を確保する必要があると判断し、児童が学校における一日の大半を過ごす普通教室のある本館東側の Is 値 0.64 の棟について、文部科学省の示す Is 値 0.7 以上を確保するため、平成 30 年の夏季休暇期間から、耐震補強工事を進めております。

また、耐震補強工事以外の対策として、北館西側棟（国土交通省が示す Is 値 0.6 に近い 0.57 の棟）については、音楽室、理科室、図工室、図書室などの特別教室があるため、必要な時間のみ利用することとし、特別な教材を使用しない場合は、普通教室にて授業を行います。

さらに、本館西側は、IS 値 0.39 であり地震に対して倒壊、又は崩壊する危険性があるとされているため、できる限り児童が立ち入らなくても済むよう、本館西側にある職員室、保健室、プレイルーム等について、耐震性が確保されている本館東側や、少しでも耐震性の高い北館西側に移設するなどの対策を進めるとともに、本館東側棟から特別教室のある北館西側棟への児童の移動については、本館西側の Is 値の低い棟を通らないで移動できるよう、簡易な渡り廊下を新設して対応します。

なお、今後は、児童の安全確保の観点からも、学校規模適正化を推進する中で、より一層の教育環境の充実を図って参りたいと考えております。

(担当部局：教育委員会事務局 教育総務部 教育総務課)

受理日	30 年 8 月 3 日
-----	--------------